

海外研修・海洋セミナー

この夏たくさんのお出会いと
数えきれない体験

この夏、町の青少年を対象に青少年海外視察研修、中学生海外派遣、B & G体験海洋セミナーが行われました。参加者の体験レポートを紹介します。

青少年海外視察研修

マレーシア・シンガポールを視察

町の将来を担う青少年に、豊かな人格や広い国際感覚を身につけてもらうための研修に今年は11人が参加しました。8月20日から25日までの6日間、アジアの異文化に触れました。



団長 宮負裕行 (橋場)

この貴重な体験を
人生の糧にしたい

研修初日の20日は、高橋教育長からごあいさつをい

ただいた後、町のバスで成田空港へ向かいました。7時間のフライトを終えて現地時間午後8時頃、クアラルンプール国際空港に到着しました。ふと腕時計を見ると午後9時を指しており、時計の針を現地時間に合わせるとき「海外に来たんだなあ」と実感しました。

入国審査の後、空港近くのレストランで夕食をとり

ました。初めて現地の料理を味わったのですが、酸味と辛味の強い味が印象に残っています。食事の後、バスで宿泊先の首都クアラルンプール市内のホテルに向かいました。そのときバスの車内から市内の美しい夜景を見ることができ、整備された国際空港と相まってマレーシアの経済発展を実感しました。

翌日はマレーシア森林研究所を訪れ、ジャングルを歩きました。ひるや巨大むかどといった生物や熱帯性植物など日本とは異なる自然環境を体験できました。

マレーシアでは自動車が高価で、そのため小型バイクが沢山走っていました。市内は雑然としていましたが、各地で高速道路などの社会資本整備が進められ、急速な経済発展と活気を感じました。

第3日目は、古都マラッカに向かい、オランダ植民地時代の総督府やサンチャゴ岩などを視察しました。マラッカ海峡も一望でき、雄大な眺めに大変感動しました。

第4日目はマレー鉄道国際列車でシンガポールに向

かいました。出入国手続きが駅で行われ、日本との違いを感じました。列車を降りた私達はシンガポール日本人会を訪ね、シンガポールの経済や社会などの話を伺いました。その中で一番興味深かったのが、「国際人」についてでした。シンガポールが多民族国家であることによる互いの文化の尊重を例に挙げ、多民族の文化を尊重する大切さはもちろん、自国の文化を尊重し自分がどの国の人間か意識している人こそ真の「国際人」であるということでした。

現地青少年との夕食会では、英会話に苦戦し、改めて語学力不足を痛感しました。夕食後、現地青少年と繁華街へ買い物に出かけ、シンガポールはとても洗練

された都市で、東京と比べても何ら遜色ないと感じました。実質的に最終日となる24日は、マライオン公園などを視察し、午後は千葉県シンガポール事務所を訪問して事業内容などを伺いました。自由行動の後、夜にシンガポールを出発し、機内で睡眠をとり、25日の朝に成田空港へ無事着きました。

本研修では、現地での体験学習や人々との交流、お話しなどから多くの事を感じ取り、学ぶことができました。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝するとともに、海外研修で得られた経験をこれからの人生の糧にしたいと思っています。(研修レポートより抜粋)



マレーシア国立回教寺院前で